

2019年バイロイト大学夏期ドイツ語研修体験記  
(参加者10名分、順不同)

国際総合学類 S.M.

2019年8月、私はドイツバイエルン州にあるバイロイトで1ヵ月のドイツ語研修に参加しました。本稿では、研修参加の経緯と目的、実際の研修の様子、研修を終えての感想の3つに分けて、研修を振り返りたいと思います。

まず、私がなぜこの研修に参加したか。目的は2つでした。1つ目は当たり前ですがドイツ語の能力を向上させること。2つ目は、ドイツという国の雰囲気を知ることです。私は大学の授業でヨーロッパ政治について学び、それまでは漠然と憧れていたドイツという国に具体的な目的を見出し、長期留学を考えていました。そこでまずは一か月、短期研修に参加することにしました。長期留学するにあたって、今の自分のドイツ語がどんなレベルなのかを確かめる必要を感じていましたし、長期留学になっても自分が適応できる地であるか確かめたいと思ったからです。また、現地で学ぶ、ということにどれだけのメリットがあるかを自分なりに測ることができればとも考えていました。

研修前は、できるだけドイツ語を勉強してから行こうと考えてはいましたが、実際はなかなか手につかずじまいでした。もしもっとしっかり勉強してから行けば、さらに収穫があったらと後悔しています。一か月は長いようですが語学習得には短すぎます。より実のある期間にするには、現地をアウトプットの場として使うべきで、そのためには日本で学べることはできる限りインプットしていくことが必要だと思いました。

バイロイトへはフランスを経由してニュルンベルク空港へ行き、そこから Deutschen Bahn に1時間乗って行きました。フランスでは乗り換え時間が10時間あったので一度出国したのですが、この時にパスポートにスタンプを押してもらえなかったことで、帰国時に少しごたごたしたので、ヨーロッパに着いた際には確実にスタンプをもらうこと。

私は大学側の設定した Arrival Day 当日にドイツに着いたので、バイロイト駅から直接大学までバスで行き、色々な説明を聞きました。(駅から大学までのルートは、バイロイトの学生の方が駅で教えてくれます) 全ての説明がドイツ語か英語かで行われます。そして説明後にそのまま学生が寮まで車で送ってくれて、自分の住居にたどり着きました。

寮は筑波大学の寮に比べると部屋は1.5倍くらい大きく、クローゼットが付いています。またシャワーとトイレ、洗面台、キッチンが部屋にあるのでとても便利でした。ただ、夏休み中に開いている部屋を利用しているようで、学期中に住んでいる学生さんの荷物などが置きっぱなしになっていたのが、初日は少し驚きました。冷蔵庫に野菜が放置されていたら早く捨てたほうが良いです。WiFiはありましたが、ルーターがないので、コードを直接差せるPCを使ってインターネットをゲットしました。Macだと専用のコードが必要になるそうです。問題はいくらかありましたが、総じて快適に過ごせた寮だったと思

います。

そして本題の授業について。授業は午前（9時から12時半、間30分休憩有）と午後（1時半から3時、木曜日は無）に分かれており、午後がコミュニケーションに特化した授業です。私は事前テストでなぜかB1のクラスに配属されましたが、実際の能力はA1程度でした。そのため初日からオールジャーマンで進む授業に全くついていけませんでした。クラスにはイングランドとロシアから来た人が多く、皆ミスはあってもドイツ語が話せていました。反対に私は、全く話せないうえに先生が言っていることも分からず、とにかく指名しないでくれ、と願ってばかりいました。クラスは自由に変更できるので、私は一つ下のクラスに変えようと考えましたが、ドイツに来て学ぶ以上やはりできるだけ多くのドイツ語に触れるべきだと思いなおし、最初のクラスにとどまることにしました。

午前の授業の内容は、毎日様々なテーマについて皆で考えながらスピーキング、リスニング、ライティングを行い、時々文法事項について講義を受ける、という形でした。テーマは、典型的なドイツとは何か、や環境問題、芸術作品など多岐にわたり、そこからドイツやクラスメイトの母国の文化を学ぶこともできました。自分の意見を先生に聞かれた時、「ドイツ語じゃ無理！」と何度も思いましたが、先生が「できるよ！やってみなさい！」と言うので頑張ってほぼドイツ語で答えました。初週から2週目くらいまではそれが一番しんどかったです。文法事項は、基本的なものは分かっていることが前提で、過去事象の表し方と接続法Ⅱ式だけは、時間を割いて説明してくれました。宿題がそれほど多くなかったのは救いでした。

午後の授業は午前に比べると軽い雰囲気、楽しく参加できました。ドイツ語の細かい発音の修得に一番重きがおかれていて、日本では聞いたことのないネイティブの発音の方法を学べたのは、研修全体を通して一番の収穫の一つでした。特に面白かったのは、rの発音は必ず喉を揺らしたり舌を巻いたりして出す音になるのではなく、多くのケースで弱い母音として発音されるという法則でした。他には道案内や落とし物探しなど、生活の場面を想定したスピーキングの練習を行いました。私のクラスの先生が、ラップ好きで、ドイツのラップをみんなで聞いて発音を確認したりしました。

授業以外でのドイツ語学習として、私はとにかく単語を覚えるようにしました。初週は授業の進行に関わる動詞（例えば“説明する”とか“選ぶ”など）さえ分からなかったのですが、授業プリントの知らない単語と、授業中に先生がよく使っている単語（耳コピーしたものをメモしていました）を全て単語カードに書き写して覚えました。頻出単語が覚えられるとなんとか授業にはついていけるようになり、2週目の後半くらいからは少し授業が楽になりました。しかしこれも事前に覚えておけば早い段階で授業が楽に受けられていたと思います。

もう一点自宅学習として試してみたのが、ラジオを聴くことです。毎日、自分の寮に帰ると一人きりになってドイツ語から解放されてしまいます。わざわざドイツに来てドイツ語に触れない時間が長いのではもったいないと思い、現地でラジオを購入しました。正

直、内容は全く分かりませんが、自分が覚えた単語が聞こえてくると、「あ、この単語は知ってるな」と少し成果を実感できるのでお勧めです。パーソナリティの相槌表現も勉強になりますし、寮に一人でいるときもさみしくなりません。

食事に関しては、朝は寮で Müsli というシリアルを食べ、昼は学食、夜は自炊(主にパスタ)というスタイルでした。寮の近くのスーパーで何度か買い出しをしましたが、Lidl が一番安かったです。エコバックを持っていく事と、店内でカートを使うときはコインを差さなければいけないことに注意です。ちなみにまともな日本料理屋はなかったと思いますが、アジアンマーケットはあるそうです。

最後に遊びについて。私はパーティーが全く好きではないのと、夜遅くで歩くのが怖かったのとで、あまり大学主催の行事には参加しませんでした。平日はバイロイト市内を一人で歩き回って買い物をするのが楽しかったです。大学主催のツアーで行くより自分で行くほうが安いこともあります。市内では Oskar というバイロイト料理屋と Opera というアイスクリーム屋が有名で、とても美味しいです。ほとんどのお店でカードが使えますが、地元の人たちは現金を使っているケースが多かったため、現金はそれなりに準備していったほうが良いかと思います。2週目の週末には、大学のツアーに参加してニュルンベルクをまわり、3週目の週末はプラハへ旅行しました。

帰国後の今、研修の目的を振り返ってみて3つの収穫があったと感じます。1つ目は研修に参加したことで、自分のドイツ語が全く通用しないと実感したことです。そのうえで2つ目に、長期留学までの課題を明確に持ち、モチベーションを高めることができました。自分の勉強不足が露呈し、すごく悔しかったと同時に、頑張らなきゃと火が付いたような感覚です。帰国後は、行く前の何倍もドイツ語学習への意欲が高まり、長期留学に向けてよい準備ができるような気がしています。そして3つ目が、長期留学することを最終的に決定できたことです。ドイツは想像していたよりも温かくて優しい人が多く、毎日知らない地元の方に助けられました。また気候や食事も問題なく適応できたので、長期でも心配ないと判断できました。今回の研修は、再度長期で渡航することを考えると、航空代などでコストは余計にかかりましたが、それに値するようないか月であったと私は思います。ドイツの魅力を肌で感じ、学習のモチベーションも高められたことで、長期留学をいかに充実したものにするか、よく考えられるようになりました。もし参加していなかったら、ただぼーっと留学して終わっていたかもしれない、と考えると、この一か月は私にとってとても重要でした。

本研修は、そのまま長期留学に行くためだけでなく、長期留学を検討するのにもとても良い機会になります。バイロイトの町も本当に素敵です。私はこの経験を活かし、今後のドイツ語学習、そして自分の専門分野の研究に精を出していきたいと思っています。

私は 2019 年 8 月の 1 ヶ月間、バイロイト大学の Summer Uni に参加しました。クラスは事前の Web テストの結果で分けられており、私は B1-1 のクラスでした。クラスメイトは日本人 4 人ブルガリア人 1 人イギリス人 1 人タンザニア人 1 人ロシア人 3 人の計 10 人でした。先生は全部ドイツ語で説明をし、知らない単語だらけでクラスを下げようか迷いましたが、授業で扱う文法はそこまで難しくなかったため、リスニングの練習も兼ねて頑張った。このクラスのレベルについていこうと思いました。毎回の授業ではその日のテーマ (typisch deutsch/sprachen verbinden/Umwelt/Dinge, die die Welt (nicht)braucht/Erinnerungen wie war es damals?/Kunststück) が出され、それについて意見を述べたり話し合ったりしました。しかし私は自分の意見をなかなか言うことが出来ませんでした。単語もわからないし文章を練るのに時間がかかるからなのですが、それ以前に特に意見が浮かんでこないこともありました。他のクラスメイトは、自分の国ではどうなのか、といったことまで発言しており、私は自国のことなのに全然知らないことばかりだし、普段何も考えずに過ごしていたんだと痛感しました。午前中だけの授業でしたがとてもハードで、毎日帰ったらその日の授業の復習(特に単語)で精一杯でした。

午後には木曜を除いてコミュニケーションの授業がありました。ドイツの生活や慣習、また自国の料理の発表といった内容でしたが、午後のクラスの先生はどちらかと言うとテキスト寄り、想像していたコミュニケーションの授業ではありませんでした。(先生によります) しかし天気の良い日は外にいて授業をするなど楽しかったです。

授業を通して思ったことは、他の国からきているクラスメイトたちのほうが圧倒的に喋れるし瞬発力があるということです。私が頭の中で、聞かれていることについてまず日本語で考えて、じゃあこれをどうやってドイツ語にしようかとかごちゃごちゃ考えているうちに、彼女たちは私が言いたかったことを、私が知っている文法や単語ですらすらと答えていて、何度も「私もそれが言いたかったのに…」となりました。文法の勉強も必要だけど、自分の知っている単語で簡単でもいいからすぐに発言したり文章を書いたりできるように瞬発力を鍛えることが大事だなと思いました。

今回の Summeruni で学んだことや意識したことをこれから 1 年間の留学生活の中でちゃんと活かしていきたいと思いました。

ちょっと後悔したことといえば、最終日に「gala」というお別れパーティー的なものがあったのですが、みんなすごいおしゃれをしてきていました。スーツケースに余裕があるならば、それ用の正装(ワンピースとかヒール)を持っていくといいと思います。

## 勉強面

バイロイト大学ドイツ語研修では、午前と午後の授業で異なる内容が行われた。

まず、午前の授業に関して述べる。午前の授業は90分の授業が2コマあり、主に文法面に関して学んだ。具体的な内容としては、der die das や ein などの冠詞の活用や、分離動詞などに関して学んだ。中でも、とりわけ私が教えていただいていたのが、生活に深く関わる名詞についてである。なぜなら私は今までの大学での授業で文法を主に学んでいたため、語彙に関してはほとんど知識がない状態だったためである。また、実際に一ヶ月生活していく際にドイツ語の単語に触れることでも語彙力を伸ばすことができたと感じた。他にも、ドイツの文化や歴史なども教えていただきドイツという国に関する知識も学ぶことができた。

午後の授業は1コマのみで、主にコミュニケーションの授業を行った。午前中に学んだ文法事項を活かして、ペアワークで会話をするというように、インプットしたことをすぐにアウトプットするという形でとても身になる授業だった。他にも、レストランのウェイター役と客役、ホテルマンと客役など、実際に生活でありそうな場面を想定した会話なども行った。ここで学んだフレーズを実際にレストランで使い、自分の意図を相手に伝えられた時は授業での学びの重要性を改めて実感した。以上のように授業はとても身になる内容が多く、非常に勉強になった。

他にも、授業が終わってからスポーツや、合唱などの課外活動なども行われていた。私は、その中でもドイツ映画の鑑賞会に参加した。ドイツ語に触れる機会をなるべく増やし、口語表現なども触れることができる映画はドイツ語を学ぶ上で非常に効果的であると考えたからだ。また、映画自体も人気作を多く上映していたため内容も興味深いものが多かった。しかし、ドイツ語音声にドイツ語字幕の映画を何時間も見るのは頭を使うため見終わった後は非常に疲労を感じた。それでも、大体の内容をつかむことができたりした時の達成感は非常に大きく、ドイツ語を学ぶ楽しさを感じることができたので、私は映画の鑑賞会に参加することを強く勧める。

## 生活面

私は、一ヶ月大学の学生寮に入り生活をしていた。食べ物は大学から帰る途中にあるスーパーで買うことで事足りた。しかし、調理器具が部屋によって当たり外れがあるように、私の部屋には小さなフライパンと鍋しかなかったが、人によってはトースターや包丁があったようだった。そのため、もし寮に住むことにするのならこのような可能性があることを少し考慮に入れてもらった方が良さだろう。ただ、シャワーもトイレも自分の部屋についていて、WGとは違い一人で気楽に過ごすことができるのは良い面だった。

また、バイロイトの町自体も落ち着いた雰囲気でもとても過ごしやすかった。時間の流れ

がとてもゆっくりとしていて、公園を散歩したり、カフェで一息ついたり、のんびりと過ごすことができた。

## 人間関係

色々な国から人が集まっているため、今まであったことのないような国の人と話をする機会を作ることができた。中でも、私は台湾の方と仲良くなり、最終日には一緒に夕飯を食べ再会を誓うような人もできた。多くの外国の方と交流したいという意欲のある人にはうってつけだろう。その際に、ドイツ語または英語で話しをするため、ある程度の語学力を持っていることは必要不可欠であると感じた。特に私は、相手の言っていることがわかっていてもスピーキング力の不足からうまく自分の考えを伝えられないということが度々あり、自分の無力さを感じた。このようなことから、自分の語学力を見つめ直し、意識を高める良い機会になったと感じた。

---

人文学類 G.K.

8月6日～30日まで、バイロイト大学での Sommeruni に参加してきました。私は1年前に別の都市での交換留学を経験し、それ以降ドイツの大学の修士課程で勉強したいと考えようになったため、今回は入学に必要な C1 レベルに到達することを目標に参加を決意しました。1か月という期間の短さの割に費用がかかることから、申し込み前は迷いもありましたが、このプログラムを終えた今、参加できて良かったと心の底から思っています。

もちろんその理由の一つには、語学力が上がったということがあります。友達との会話をはじめ、基本的には一日中ドイツ語に触れているので、ドイツ語で考える癖をつけるためにも非常に良い環境でした。また、私は TestDaF というドイツ語の資格試験の対策クラスにも参加したので、テストに向けてよい準備もできました。しかし参加して良かった点はそれだけではありません。このプログラムには世界各国から学生が集まっているため、一緒に学ぶ中で彼らと仲を深めることができ、たくさんの刺激を受けました。そして私には帰国後もお互いに連絡を取り合っている親友もできました。ドイツ語やドイツの文化を知ることはもちろんのこと、他の様々な国の言語や文化も知り、興味を持つきっかけにもなり、いい意味で予想を裏切られる、とても充実した濃い一か月を過ごすことができたと思っています。Sommeruni は毎年伝統的に開催されているだけあって、授業だけでなく、Kulturprogramm や Exkursion、Abschlussgala などの企画、学生の入退居サポート等まで非常にしっかりとオーガナイズされているため、特に初めてドイツ留学するという人には、ぜひお勧めですし、一生記憶に残る貴重な経験になると思います。以下、午前と午後の授業の内容について少し具体的に書きたいと思います。

### 午前 Sprachkurs

全体で 10 人の少人数クラスでした。授業では主に Stereotyp, Tabus, Heimat, Essgewohnheiten(Fastfood, Bioprodukt), Grundgesetz, Zivilcourage, Digitalisierung などのテーマを扱い、具体的には例えば、自分にとって故郷とは何を意味するのか、どんな感情と結びついているのか、複数の場所が故郷になりうるのか、といったことについてみんなで議論をしたり、Bioprodukt について説明された映像を見て、どのような情報が述べられていたか再度説明をしたり、Fastfood について書かれたテキストを読んで、グループやペアで内容を要約したりするなど、授業内では非常に多様な課題に取り組みました。このような様々なテーマに触れる中で、その場面に関わる語彙が増えたのはもちろん、自分の体験や意見を表現する力、そしてドイツの文化や習慣も知識として身につきました。また、面白かったのは、中国の文化や習慣についてもよく知ることができたことです。比較的中国からの学生が多いクラスだったので、彼らの話を聞いて、お互いの国における差異を知ることができました。午前のクラスでは、最後の方にテストが実施されるため、月の後半はその対策も含め、実践的な Lesen, Hören, Schreiben, Grammatik などの演習問題に取り組みたりもしました。その際には先生が、今後テストなどを受ける際にも役立つような問題を解く際のストラテジーも解説してくださりました。授業を総合的に振り返ってみると、少人数ということもあって、先生や受講生同士の距離感も近く、とても楽しくドイツ語を学ぶことができました。

### 午後 Fachkurs(Prüfungsvorbereitung TestDaF)

これも 10 人前後の少人数クラスで、ウクライナ、ポーランド、イタリア、ロシア、トルコ、イラン、中国などいろいろな国からの参加者がいました。基本的に皆ドイツの大学で勉強したいという志を持っており、そのために TestDaF の受験が必要になるため対策クラスを受講していました。授業ではまず大まかな TestDaF の流れや構成が説明され、その後は先生が配布する過去問に繰り返し取り組む形でした。テストは Lesen, Hören, schriftlicher Ausdruck, mündlicher Ausdruck という 4 つの部分から構成されていますが、中でも授業で重点的に取り組まれたのは、mündlicher Ausdruck です。問題の傾向や、各問題で使用可能であろう Redemittel を先生が提示してくださり、それに従いながらペアワーク等で練習を繰り返しました。最終的には、このタイプの問題の時にはこの型が使えるなという風にして自分のルーティーンができ、制限時間の中で焦らずに自分の考えを述べることができるようになりました。また、課題の内容についてクラス全体で議論ができたのは非常に大きな利点でした。というのも、これは自分一人で対策する際にはできないことだからです。今まで自分にはなかった考え方や視点に触れ、一つの事柄に対する見方の引き出しが増えていきました。クラスメイトの知識や考え方に驚かされ、刺激を受けることが多々あり、とても良い経験になりました。

### ○参加動機

9月からの留学前に少しでも現地でドイツ語の力を伸ばしておきたかったからである。他の大学に個人で申し込むことも考えたが、初めてのドイツへの渡航、どこか拠り所があった方が良くと思い決断した。

### ○参加プログラムの詳細

ー授業…事前にネット上で行われたテストの結果をもとにクラス (A1.1~C2.2) が分けられた。B1.1では全てドイツ語で授業が行われ、はじめは先生の言っていることをほとんど理解できなかったが、数日経つと徐々に慣れてきて何となく分かるようになった。授業では、いくつかのテーマ (ドイツとは?、環境保護、ドイツの芸術家など) に合わせて文法を学んだ。文法そのものはそこまで難しくなかったが、それを使って与えられたテーマについて話し合うことはハードだった。クラスメイトが発言するなかで、何も言えないこともあり、非常に悔しい思いをした。日本にいる間に、多少なりとも会話の練習をしておくべきだったと反省している。しかし、どんなに拙いドイツ語でも、先生がしっかりと聞いてくれたおかげで、少しずつ発言できるようになった。

ーアクティビティ…この研修では、授業の他にアクティビティプログラムが充実していた。スポーツやコーラス、映画鑑賞、ツアー、ドイツの朝ごはんなど、誰でも自由に参加することができる。私は、週末の小旅行に参加し、バンベルク、ニュルンベルク、レーゲンスブルクを観光した。また、授業最終日の夜には、音楽コースや映画コースの人によるコンサートが開催された。慣れない土地でも、このアクティビティプログラムのおかげで、充実した日々を送ることができた。

### ○寮生活

申込時はホームステイを選択していたが、受け入れてくれる家庭の空きがないとのことで、急遽WGでの生活となった。私の居たWGには、他にドイツ人が3人住んでおり、皆とても優しかった。今日の出来事や学んだことなどを聞いてくれたので、会話の練習にもなった。また、週末には家の近くの名所に連れて行ってくれたり、うどんパーティーや寿司パーティーを開催してくれたりもした。ドイツ語で分からないことがあった時には、相談にものってくれて、一ヶ月問題なく過ごすことができたのは、このWGにいたことが大きいだろう。ホームステイからの急な変更で驚いたが、結果的には誰よりも良い経験ができた。

### ○バイロイトの街について

バイロイトはとても過ごしやすい街である。中心街には大きなデパートもあり、基本的な生活用品は揃えることができる。オペラハウスなどの観光名所も多く、一ヶ月の間



に色々なところをまわることができた。自然にも近いので、街全体にゆっくりとした時間が流れているように感じた。とても居心地の良い場所なので、留学中に、もう一度訪れようと思う。

---

社会学類 E.S.

今まで旅行で海外に行くことは何度かあったが、今回は語学研修という形で海外で1ヶ月過ごしたので勉強をしに行ったという点やドイツでの普段の生活の中でも刺激になることがとても多かったです。大学に入って、留学に憧れはあったが英語圏に行ってもつまらなそうなのでせっかく第二外国語で選んだドイツに行ける機会があるなら今回の研修に参加することしました。

まず、生活について。買い物やレストランやバスなど、全てが日本と違うのでとても驚きました。まず、どの店に行っても店員も客も互いに挨拶をするという点には驚きました。日本では店員からの一方的な声かけしかないので、人と人の繋がりを感じて暖かかったです。また、バスも運転手から直接切符を買い、自分で改札するなど違うことがたくさんありました。私が初めてバスに乗った際、改札の仕方がわからず困っていると近くに座っていたドイツ人男性が優しく教えてくださいました。駅で切符を買う際も迷っていると後ろに並んでいる人が教えてくれたりと、とても親切な人が多いように感じました。レストランでの食事中にも店員が声をかけてきたりと、他人同士であっても関係を大事にする国だと感じました。最初はチップを払う文化の意味がわからなかったのですが、何日か経過しているとそれもコミュニケーションの一部なのかなと感じるようになり、気持ちよく払えました。

次に授業について、クラスは午前中の文法と午後の会話に分かれていてA2のクラスに入れられたのだが、当然授業はほとんどドイツ語で進んでいった。教わる内容こそすでに知っているものだったが、説明が理解できなかったので止むを得ず1つクラスを下げてしまった。下げたクラスは得ることも多かったが少し簡単だったので下げなければ良かったと後悔しました。午後と両方下げてしまっただけでは来た意味がないので、午後のクラスだけ下げずに先生にお願いしたところ受け入れてくれ、とてもありがたかったです。当然会話のクラスも授業は全部ドイツ語で進むのですが、日常会話をメインに勉強したので文法などを教わるのとは違い、感覚的に相手の話していることを理解することができました。それについてこの授業を受け、日本で外国語を学ぶことの限界についても感じました。

クラスの中では当然互いにドイツ語で会話するのですが、レベルがA2ということもあり参加者皆がそれほど高いレベルのドイツ語を持っているわけではないので友達同士はほとんど英語で会話をしていました。その際感じたのが日本人の英語のレベルの低さです。全く話せないということではなく、他国に人達に比べて英語を話し慣れてないという点についてです。ヨーロッパの国々に住んでいる人達は英語を使う機会も多いために自然と習得

していくようです。日本人が外国語を話せないのはその環境にあると思いました。日本にいと外国語を日本人からしかほとんどの場合教わらず、会話をする授業などもほとんどありませんでした。なので、言おうと思っても言葉が出なかつたりするのだと思います。また、日本人は外国語を話す際に文法を完璧に話そうとするとされますが、私は文法よりも発音の方が大事だと1ヶ月の滞在で感じました。同じアジア人同士の会話を聞いても、単語の発音が下手なので日本人はすぐにわかります。午後の会話のクラスではドイツ語の本当の発音をドイツ人の口から習うことができたのでとてもためになりました。日本の授業だとドイツ語はほとんどアルファベットの通りに読めば良いという程度の教え方しかされませんでした。実際はそうではなく、そのままアルファベット読みしても通じません。母国語話者の口から聞いて自分の口で何度も話すことが1番効果的だと感じられたことが1番の収穫でした。

また、留学を決めた頃はドイツに行けるという楽しみだけを考えていて本当は何をしに行くのかそこまで考えていませんでしたが1ヶ月の滞在でその理由を見つけることができました。本来、私のように第2外国語で留学をするなら英語は当然できた上で行かなければいけないと感じました。友達と話す際、自分が大学で何を専攻しているのかという話に必ずなりましたが、ドイツ語を専攻している人はほとんどいませんでした。高校の頃担任の教師が、英語は出来て当たり前。その上で自分の専門科目が生きると言っていたのをここで初めて理解しました。ドイツ語にしても同じだと感じ、また英語圏以外の国に行くことで英語のその言語と同時にレベルを上げることができると感じました。また、自分が今学んでいることを海外に出ることで他の目線の捉え方を聞くことができ、また自分も別の目線から考えることができるようになる。という留学の理由を見つけられたことはとても良かったです。ドイツに行くならもう少しドイツやヨーロッパの政治についての知識と語学力があればもっとたくさん学べただろうと思ったのは失敗でした。今から1年間の留学などは考えていないが、また短期のドイツでの語学研修を探して参加したいと思います。

---

文芸言語専攻 H.Y.

はじめに

2019年8月6日から30日まで、バイロイト大学の語学研修に参加しました。午前中は、各自レベル別のコースに分かれ、午後は、コミュニケーションコースからDSH準備コース、ビジネスドイツ語など、それぞれの目的に合わせて、自由に選択することができました。私は、今回、午前中は、C1.1コース、午後はコミュニケーションコースに参加しました。授業後には、様々な行事が企画されていたのですが、私は筑波での論文がいくつか残っていたので参加していません。そのため、授業以外に、WG（シェアハウス）やクラスメイトとの出来事について紹介し、そこから学んだことについて書きたいと思います。

### 1. 授業について

私の所属したクラスは、C1レベルを目標としていました。20人程度のクラスで、1回目の授業では、どんなテーマに興味があるか個々に質問され、そのテーマに沿って先生が様々なテキストを用意してくれました。ドイツに関する政治、歴史、料理、文化や移民・難民問題等、様々なテーマを通して、考えさせられることが多く、語学以外にも学ぶことが多々あったのは大きな収穫でした。

また、授業ではリーディング、リスニング、ライティングにスピーキングを全て満遍なくこなしました。文法も頻繁に確認問題を行ったので、自分が苦手なところを見つけることができ、克服できました。

### 2. WGについて

私は、ドイツ語でWGといわれる、シェアハウスにバイロイト大学の学生であるドイツ人二人と生活していました。二人とも、とても親切で、ドイツ料理を教えてくれたり、市場に連れて行ってくれたり、バイエルン地方のビールをみんなで飲み比べしたりと、ドイツ文化を間近でたくさん見せてもらうことができ、語学学校外でも充実していました。

### 3. クラスメイトから学んだことについて

私のクラスは、中国からの留学生が多く、語学学校での大半の時間を中国人の友達と過ごしていました。彼らの大半は、ドイツ語学専攻で、2年目にもかかわらず、C1レベルのクラスで頑張っていたので、とても良い刺激を受けました。また、私は、良くも悪くも中国に対して偏見がありました。しかし、一人一人と直接会話をしたことで、誤った偏見、固定概念があることに気づきました。気づかないうちに、自身で作上げた誤った固定概念や偏見があることは、自身の視野を狭めることになるかと再確認させられました。

最後に

今回2度目の留学でしたが、前回の留学とは異なる経験をし、学び、考えさせられました。最も印象に残っているのは、日本で気づかないうちに作り上げた、外国人（他人）に対する誤った固定概念と偏見です。これらを克服するためには、相手との直接のコミュニケーションが大切であると、今回の留学で再認識させられました。

私は引き続き、留学を続けるので、ドイツ語の更なる習得を目指し、視野を広げ、様々な価値観のある人との出会いを大切に、自分の中で作り上げた誤った固定概念と偏見を克服することを心掛けたいと思います。

---

国際総合学類 Y.S.

今回の一か月の語学研修は、私にとってかなり有意義なものになった。一か月という長い期間外国で、しかも遠く離れたこのヨーロッパで生活するという経験をこれまで私はしたことがなく、出発の前は期待と不安の入り混じる複雑な心境であった。案の定ドイツでの生活は、日本と異なる点が多く、戸惑うことがあった。日曜日にスーパーは開いていない

こと、自動販売機がないこと、水をスーパーで買うとペットボトルに 25 セントのデポジットがついていること、その中で特に印象に残っているのは、ドイツと日本の時間の使い方、流れ方の違いである。それは私が一か月の間暮らした WG のルームメイト、バイロイトで出会った人たちとの会話や生活を通して感じたことである。日本では、多くの人が毎日何かに追われるように忙しく過ごしているような気がする。ドイツでは、平日は基本的に定時で仕事を終えて、その後は家族とご飯を食べ、談笑したりテレビを見たりして過ごすことが多いそうだ。また平日の昼間であってもバイロイトの中心部のレストランやカフェではビールを飲みながら友人と話をしている人を多く見かけた。私の父親はいつも夜九時過ぎに帰宅することが多く、母も働いており、妹も高校の授業や部活動などで、家族そろってご飯を食べることが非常に少なかったこと、日本では過労死という深刻な社会問題があることを話すと、ドイツ人にはとても驚かれ、それはあまり良くないとも指摘された。また、それは比較的時間に余裕があるとされる大学生の期間においても同じことが言えると感じた。日本の大学生は、大学の授業やアルバイト、三年生の時期から始まる就活のためのインターンによって、どこか忙しくなく、周りに流された日常を送っているような気がする。それ故自分が大学でしかなかった本来の目的を見失って、自分がこれからの人生で何をしたいかを考えて生活してる人はかなり少ないのではないかと思う。ルームメイトの話やドイツでの生活を通じて、もっと違う生き方、もっと心に余裕を持った生活もあるのではないかと感じた。もちろん、日本の習慣全てを否定するわけではないし、それらが日本のこれまでの発展を支えてきたという見方もできると思うが、新しい働き方が求められる今、ドイツのような生活の仕方も参考にすべきではないかと思った。私自身も心に余裕なく、毎日を過ごし、自分と向き合うことなどほとんどしてこなかった。この後始まるボン大学での一年間の留学期間で様々なことを経験し、いろいろな人と出会い、そして自分と向き合っ、これからの大学生活で何ができるか、何をしたいかをもう一度考えていけたらと思う。

次に学習面であるが、授業は午前 9 時から 12 時 30 分（その間に 30 分間の休憩）までの文法の授業と午後 1 時半から三時までのコミュニケーションの授業が月曜日から金曜日までほぼ毎日行われた。ドイツの授業は、まずその内容について説明があった後、ペアワークやアプリといったゲーム感覚で実践力をつけていくものが多かった。それ故、研修前には長いと感じていた授業時間もあっという間に過ぎていった気がする。WG に帰ると、ルームメイトにその日の授業でわからなかったことを質問して、理解を深めることができた。また、毎週土曜日は、バイロイト大学がバンベルク、ニュルンベルク、レーゲンスブルクへの旅行を企画してくれており、それに参加した。平日の授業の疲れも残っており、少しきついときもあったが、どの都市も非常に魅力的であったし、授業で習ったフレーズを実際に使用し、それが相手に伝わったときは非常に嬉しかった。また私は筑波大学の友人と共に研修期間中に個人的にミュンヘンを観光した。ミュンヘンは歴史とモダンが調和する素晴らしい街で、ドイツ滞在中にもう一度行きたいと思わせてくれた。来年このバイ

ロイト大学の語学研修に参加するであろう後輩たちには、ぜひこれらの企画に参加し、旅行することをお勧めする。きっと素晴らしい思い出になるはずだ。

私のクラスは、中国人や台湾人が非常に多かった。彼らとは本当に仲良くなり、放課後一緒にアイスを食べたり、ビールを飲んだり、中華料理を振舞ってもらったり、そのお礼に私と友人で日本食パーティを開いたりするなど、一か月という非常に短い期間であったけれども貴重な経験とかけがえのない友人ができた。彼らと別れるときに、「次は日本や台湾、中国でまた会おう、台湾、中国に来たら連絡してね」と言われたときは、嬉しかった。いつか必ず彼らにもう一度会いに行き、互いに成長した姿を見せ合いたいと思っている。

今回の一か月の研修を通して、私は本当に人に恵まれているなと感じた。ドイツ語も英語もあまりうまく話せない私に優しく接してくれたルームメイト、いつもニコニコして私たちにドイツ語を教えてくれた先生方、そして仲良くなった中国人や台湾人の友達、皆私にはもったいないくらい良い人たちばかりであった。本当に感謝したい。またこのような機会を提供してくださった相澤先生をはじめとする筑波大学関係者の皆様、両親にも感謝の気持ちを伝えたい。

---

国際総合学類 W.T.

今回私は8月6日から8月30日までバイロイト大学の夏期語学研修に参加しました。以下はその研修についての報告・感想であり、ドイツ語の講習についてと講習期間中のドイツでの生活についてという大きく2つに分けて記述しています。

まず授業に関してですが、この語学研修は午前中の文法がメインの授業と午後のコミュニケーションがメインの授業に別れていて、そのクラスのレベルは事前に日本で受けたプレテストの結果に基づいて決まっていました。私はまだ文法の勉強を一通り終えた程のレベルだったため、比較的下のクラスで授業を受けることになりました。そして上にも記した通り午前中は文法中心の授業で、その内容は過去の表現、序数、時刻などこれまでに一度は習った一般的な内容でした。しかしその授業で1つ印象に残ったことは、プリントやテキストで文法事項を一通り学んだあとは音読やペアワークを繰り返し行うなど、日本の授業よりもより「声に出して体に染み込ませる」という事に主眼が置かれていたことでした。そして、午後のスピーキング授業では主に、紛らわしい発音（ウムラウト等）練習やペアワークで道案内、簡単なドイツ語のプレゼンなど実践的な内容を学びました。自分は今までドイツ語での会話や発表などはほとんどしたことがなかったため、最初はとても難しく感じ苦労しましたが、授業を重ねるにつれて段々と学んだ単語や表現を使って自分の言いたいことを言えるようになっていったことを強く実感することができました。私はこれらの授業を通して、外国語能力を最も確実かつ効率的に向上させる鍵は自ら積極的に話し、間違え、そして修正していくという行為にこそあるということを改めて思いま

した。また、私を含め日本人の学生は指名されない限りほとんど授業中発言することはありませんでしたが、外国人の学生（主にヨーロッパ）は少しでも分からない事項があると分かるまで積極的に先生に質問をする場面が多く、日本と海外の学習環境の違いも身に染みて感じました。

続いて生活面ですが、私は大学近くの家で、同じプログラムに参加するヨーロッパの男子学生2人と共にホームステイをしました。私はホームステイはもちろん初めてのことで今回の研修の大きな楽しみの1つでしたが、ホストファミリーのご家族は簡単な英語しか通じず一方で他の2人の学生はドイツ語がある程度話せていたので、最初の方は自分だけホストファミリーと思うようにコミュニケーションが取れず、最初のうちはとても苦しい思いをしました。しかしながら、大学での授業を受けるにつれて段々とドイツ語を話すということへの抵抗がなくなっていくと、段々と自分からホストファミリーにその日の出来事や質問など簡単なドイツ語でですが積極的に話しかけられるようになり、最終日には研修の事やドイツの 会のことなど色々な話をできるまでになりとても嬉しかったです。また、食事は基本的に自分で調達する必要があったためお昼は学食で食べ朝や夜はスーパーで購入しました。スーパーは日本よりも安い価格でパンや飲み物が買えたので非常に便利でしたが、日曜日にほとんどお店が閉まることや店員の接客態度なのは日本とは異なる部分で驚きました。日本にコンビニや自動販売機が当たり前にあることがいかに便利なのかを思い知るとともに、両国の労働の実情についても詳しく知りたいと思いました。またこのような日常生活に欠かせない買い物等においても、商品名や食べ方、入口出口などの表示が全てドイツ語だったため初めは苦労しましたが、固有名詞を自然に覚えることに繋がったので良かったです。

最後になりますが、私は今回ドイツ語の能力に加えて、恐らく旅行ではなかなか感じられないありのままのドイツを体感することができました。この研修で学んだことや感じたことをこれからの大学生活や留学に活かしていきたいと思います。

---

国際総合学類 S.Y.

2019年冬セメスターから始まる1年間の留学に先立ち、バイロイト夏季講習に参加した。バイロイト夏期講習は、授業だけにとどまらず、放課後にはスポーツ、映画鑑賞会、Literature Café、合唱、飲み会などが開催され自由に参加できるようになっている。また希望すればWGで同年代のドイツ人とシェアハウスをしたり、運が良ければホームステイもできる。休日にはニュルンベルク、レーゲンスブルクなどへの遠足が予定されており、忙しいながらも充実した毎日を過ごすことができる。

私は、午前中に合計3時間の文法の授業を受け、午後から1時間半のコミュニケーション

のクラスを受講した。午前中の授業については、後悔が残っている。クラスの中でベストを尽くせなかったという後悔ではなくて、もっと日本で勉強しておけば、という反実仮想の念である。事前のオンラインテストの結果、私は A2-1 レベルに入れてもらった。このクラスでは主に現在完了形を反復して学んだ。既知の文法事項だったものの、会話で使うことができるレベルに達していなかったのが、今日あったことについて、聞いたり、話したりすることができるようになったことにはとても感謝している。しかし、このクラスではプリントを解き、丸付けをするという作業が中心だった。解説はほとんど英語だったので、日本でやろうと思ったらより簡単にできたはずのことである。日本でやれたはずのことを、なんで日本語より苦手な言語でやっているんだろう。この焦燥感は、先生に勧められて一度だけ B1 のクラスに出席したときにより強くなった。そのクラスの内容は、短い動画を見てから典型的なドイツ人についてグループで議論するというもので、クラスの雰囲気は明るく、学生たちは活発に意見を交換していた。ドイツ語を使う練習というのは、一人ではできないものだし、練習相手の雰囲気ややる気に左右される面が大きい。この B1 のコースはドイツ語を使う練習をするには最高なクラスのように感じた。もっと自分に力があれば、このクラスに行けたのに。そんな苦い思いでもと居たクラスに戻った日は、悔しくてちょっと泣いた。

バイロイトに行こうかなーと少しでも考えている方につたえたいのは、いきなりお説教のような文章になってしまって申し訳ないのですが、言語力はあればあるほどチャンスが広がるということです。申し込み時点で B1 以上のレベルのある人は午後のコースをコミュニケーションだけでなく、EU、経済、音楽、映画などからも選ぶことができます。また、特定のレベルの証明がなくても、会話力があれば Literature Café や International Communication などの放課後イベントに参加することができます。自分の感覚ですが、上のクラスに行けば行くほど学生のドイツ語に対する本気度が上がり、それに対応できるよう経験値のある先生に教えてもらえるような気がします。ドイツに来るだけでドイツ語がペラペラになれるという魔法は多分ありません。ドイツ語を使えるチャンスが増えるだけです。

厳しいことを書いてしまいましたが、バイロイト夏期講習は充実していて、毎日がきらきらしていて、参加できたこと自体に後悔はないし、悔しいと思ったぶんだけドイツ語に本気になれたし、こんな機会に巡り合えたこと、めぐりあわせてくれたことを本当に感謝していることを強調しておきます。

午前の授業の後は学食で友達とご飯を食べた。第一週の遠足で知り合った人たちで、国籍も、年齢も、クラスのレベルもまちまちだったが、なぜか居心地が良かった。午前の授業に何をやったのかを話したり、ドイツの学食の彩りのなさについて文句を言ったり、とき

には Brexit や社会保障の話までした。彼女らと話していて感じたのは、私は日本人であるということだった。かれらの出身地はそれぞれ、イギリス、スペイン、メキシコ、ナイジェリアだったものの、メキシコとナイジェリアの二人はそれぞれフランスとイギリスに長く住んでいた。ヨーロッパに来て何に驚いたかと聞かれ、私が最初にドイツに着いたときの話をした。入国スタンプを押してもらえないまま難なくタクシー乗り場までついてしまい、焦って入国スタンプを押してもらおうべくレーンを逆走しかけ、空港内をスーツケースとともに歩き回った。カギはポーランドでトランジットをしていたことで、そこで押してもらったスタンプが有効なので入国スタンプは要らないのだそうだ。他国にお邪魔するたびに必ずスタンプをもらっていた身としては、一度聞いただけではこのシステムが理解できなくて、あとあとビザを取るときに難儀するに違いないと恐れて3回も別の人に同じ質問を繰り返してしまった。一通り聞いた後で四人は、何が面白いのかという顔で「EUだからね」と一言。しかし島国出身としては、EU というものの存在を実感をもって認識したこと自体が、そもそもこの驚きを共有できないことが、カルチャーショックだった。(ちなみにこの会話は全部英語です、、、)

放課後は上述の友達に誘われ、合唱に参加していた。思えばこれに参加したことが、私のバイロイト生活のハイライトだったと思う。もともと歌うことが好きだったので、勇気を出して参加したが、音楽室に一步足を踏み入れたら、案の定、聞こえる言語がすべてドイツ語で、何を言っているのかちんぷんかんぷんだった。少なくとも先生の指示は、昔ピアノをやっていたことが幸いして、クレッシェンド、レガートなどの音楽用語を必死に聞き取って理解を補うことはできた。しかし、学生同士の会話はすべてドイツ語で、聞く力も話す力も不足していた私はその輪に加われなくてさみしい思いをした。話しかけてくれる親切な人もいたが、話の八割がたを理解することができず、その親切心がつらかった。さらにきつかったのは、ソプラノを歌っていたのにある日突然アルトに転向させられたことだった。自分のドイツ語能力のなさから自分はソプラノだと主張することができず、必死でアルトパートの音符を追った。

発表会の前日、そもそも発表会があるということすら後から知った事だったが、ドレスコードについてだれかに聞きたくて、音楽室に手持無沙汰に残っていた。誰かセンスのありそうな人はいないかなとあたりを見渡していたら、コスタリカ出身のお兄さんと目が合った。お兄さんは、私がドレスコードの詳細について聞くよりも早く、「君も飲みに行くの？」と聞いてきた。Trinken って言った？と目を白黒させていると、先生が、合唱の打ち上げのために、練習終わりに飲みを誘ったじゃないか、とゆっくり説明してくれた。まったく聞き取れていなかった。上述の仲のいい友達はすでに帰ってしまったし、行ってもまた会話に加われないしお荷物になるだけだから行く意味もないな、と思って、行かないよ、ドイツ語上手にしゃべれないからね。と返事をしたら、予想外の答えが返ってきた。



ここにいる学生はみんなドイツ語を学んでいるのだから、わからないことがあるのは当たり前だ。ドイツ語が話せないことはこの飲み会に参加しない理由にならないし、むしろ参加してドイツ語に耳を慣らすべきだ。この短い文を理解するためにも3回くらい聞き返しているのだが、お兄さんの持論は完璧だった。自分が、ドイツ語ができないことを理由に、ネガティブにネガティブに、保守的に保守的になって、周りに対して卑屈になって自分から壁を作っていたことに気づかされた。せっかくの機会を自分が作った壁で台無しにしてしまうのはもったいない気がして、かといって乗り気にもなれなかったが、何事も経験だと思ってついていくことにした。突然参加すると言い出した言葉の通じない私を、みんなは難なく受け入れてくれた。驚いたことに、会話の中に入ってみると、話している内容くらいは分かるようになっていた。みんなが簡単できれいなドイツ語でしゃべっているということが大きな要因だが、会話の流れを理解できて、みんなが笑っている所で私も笑えていることにじわじわと感動した。ヒールがうざったいと言って靴を脱いで歩き出したベトナム人の女の子を、何杯ビール飲んだの？とからかってみんなで大笑いしたこと、先生の野望と発表会のクオリティーの話、酔った勢いで先生が歌い始めた南米の歌、これにブラボーが飛んできたのに気をよくして、全員で楽譜を引っ張り出して翌日の発表会で歌う曲を歌い始めたこと、すべてが忘れられない思い出になった。

この日、勇気を出して合唱に参加したことを、きつかったけど逃げずに参加し続けたことを、心からよかったなと肯定することができた。お兄さんの持論のおかげで、トライしてみようという気になれた。トライした先で、勇気を出してみれば案外どうとでもなるんだなと学んだ。単純な私の脳みそは、つらかった合唱の思い出すべてを、この日の素敵な思い出で上書きしなおした。

思い出がたくさんできた一か月間だった。誘惑に負け発表会直前にシャンパンを飲んでしまっただけで本番はうまく声が出なかったこと、最後の授業で朝ごはんをみんなで持ち寄って食べたこと、コミュニケーションの授業の中でロシア語でカンニングを意味する“シュバルガオカ”という単語を何度も使ってロシア人の方とペアワークしたこと、メンザで Brexit について話していたら午後の授業に大幅に遅れてしまったこと、天気の良い日にバイロイトの町を歩き回ってサンダルが壊れたこと、拙いドイツ語を駆使してカフェでケーキとコーヒーを頼んでカフェ勉強したこと、そのことについて先生にどや顔で話したら「ここでカフェ勉強はあまりポピュラーじゃないわ」と言われてしまったこと、友達とプールに遊びに行ったこと、飛行機雲がきれいだったこと、ビアガーデンで 1L ジョッキをぐくぐく飲むドイツ人に仰天したこと、日本人フラットメイトとともに毎日一緒に日本食を作ったこと、ほぼ毎日ドイツ人フラットメイトも含めた三人でご飯を食べたこと、ヴィーガンたちの寿司パーティーでつくった魚なしパプリカ入りの寿司が意外とおいしくてびっくりしたこと、スーパーで見知らぬおばさんにジャムのおすすすめを教えてもらったこと、切り干し大

根をドイツ人フラットメイトに味見させて何とも言えない顔をさせてしまったこと、ビール醸造所に遊びに行ったこと、テスト前日にドイツ人フラットメイトの悩みについて延々と話を聞いて寝不足のままテストを受けたこと。思い出深いだけでなく、バイロイトでの一か月を通じて、もちろん自分のドイツ語能力もちょっとは上達した(と信じたい)。これからドイツの大学でのセメスターが本格的に始まる。きつときついこと、めんどくさいことのほうが多いと思う。でも、日常の小さなことに幸せを見つけつつ、バイロイトでそうであったように、きついことを乗り越えた先に、一生心に残る思い出ができることに期待して、頑張りたいと思う。